

様式 A 倫理（田中）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	倫理 Ethics		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	1 年共通	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	必履修
	担当教員・所属系	田中雄祐・非常勤講師		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	哲学／倫理学		
	学習教育目標との関 連	本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」「⑤グローバルな視点と社会性の養成」「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(G) 技術者倫理の理解」である。		
	授業の概要	本科目では、生命倫理や環境倫理といった、現代社会がはらむさまざまな倫理問題を具体的に検討する。また、さまざまな文化圏の哲学・倫理・宗教について歴史的に概観し、倫理について考えるための基礎教養を学習する。		
	学習目的	本科目は、現代社会の倫理問題を具体的に検討することによって、また倫理思想を歴史的に理解することを通して、技術者として社会に対する責任を自覚するための基本的能力を涵養することを目標としている。		
	到達目標	1. 諸思想や諸宗教において、人としていかに生きるべきと考えられてきたか、理解できる。 2. 環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。 ◎人間性、教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。		
履修上の注意		本科目は、学年の課程修了のため履修が必須である。		
履修のアドバイス		予習復習としては、日頃から新聞を読む習慣を身につけよう。		
基礎科目		特になし		
関連科目		日本史（2 年）、政治経済（2）、異文化社会論（4）、日本社会論（4）、技術者倫理（5）		

授業にかかわる情報		
授業の方法		基本的には倫理の教科書を使用して授業を進めていく。 とくに生命や環境に関するテーマについては、全学科共通で視聴覚教材をできるだけ利用したい。
授 業 計 画	開講週	
	前 期	内容〔項目〕（指示事項）
		1 週 • ガイダンス
		2 週 • 第Ⅰ部「青年期と自己の課題」
		3 週 • 第Ⅰ部第1章「青年期と自己の探求」
		4 週 • 第Ⅰ部第1章「青年期と自己の探求」
		5 週 • 第Ⅰ部第1章「青年期と自己の探求」
		6 週 • 第Ⅰ部第2章「自己と他者」
		7 週 • 第Ⅰ部第2章「自己と他者」
		8 週 （前期中間試験）
		9 週 • 第Ⅱ部「人間としてのあり方・生き方」
		10 週 • 第Ⅱ部第1章「人間としての自覚」
		11 週 • 第Ⅱ部第1章「人間としての自覚」
		12 週 • 第Ⅱ部第1章「人間としての自覚」
		13 週 • 第Ⅱ部第1章「人間としての自覚」
		14 週 • 第Ⅱ部第1章「人間としての自覚」
	後 期	（前期末試験）
		15 週 • 前期末試験の返却と解答解説
		16 週 • 第Ⅲ部「現代社会と倫理」
		17 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		18 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		19 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		20 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		21 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		22 週 • 第Ⅲ部第1章「現代社会を生きる倫理」
		23 週 （後期中間試験）
		24 週 • 第Ⅲ部「現代社会と倫理」
		25 週 • 第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」
		26 週 • 第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」
		27 週 • 第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」
		28 週 • 第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」
		29 週 • 第Ⅲ部第2章「現代の課題と倫理」
		（後期末試験）
		30 週 • 後期末試験の返却と解答解説

教科書，教材等	教科書：『現代の倫理』（山川出版社） 参考書：特になし
成績評価方法	年４回の試験 100%（その内訳は、25%×4）。それぞれの試験で、上記の達成目標の達成度を判定できる課題を課す。定期試験では教科書・ノートの持ち込みを許可しない。原則として、再試験は実施しない。
受講上のアドバイス	本科目は環境教育関連科目である。 本科目は、現代社会の倫理問題を具体的に検討することによって、一般科目教員が技術者倫理を体系的に概説する「工業倫理学」（５），専門教員が教育するさらに実践的な「工学倫理」（専１）の基礎科目として役立つ。 遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を１欠課とするという措置はとらない。

ルーブリック							
	理想的なレベルの目安（優）	標準的なレベルの目安（良）	未到達レベルの目安（不可）				
評価項目 1	諸思想や諸宗教において、人がいかに生きるべきと考えられたか、詳細に理解できる。	諸思想や諸宗教において、人がいかに生きるべきと考えられたか、基本的に理解できる。	諸思想や諸宗教で、人がいかに生きるべきと考えられたか、基本的に理解できない。				
評価項目 2	環境問題，エネルギー問題といった地球的諸課題について詳細に理解できる。	環境問題，エネルギー問題といった地球的諸課題について基本的に理解できる。	環境問題，エネルギー問題といった地球的諸課題について基本的に理解できない。				
評価項目 3	人間性，教養など，社会的・地球的観点から物事を詳細に考えることができる。	人間性，教養など，社会的・地球的観点から物事を基本的に考えることができる。	人間性，教養など，社会的・地球的観点から物事を基本的に考えることができない。				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20